

# 2026(R8).6.4 信濃毎日新聞

## 地方創生伴走支援制度で 支援官3人 南木曾を視察



町内を視察する支援官(左の3人)

中央省庁の職員が地域の課題解決を助ける「地方創生伴走支援制度」で、南木曾町を担当する内閣府地方創生推進室の支援官3人が5月28日から2日間、町内を視察した。

観光振興や産業活性化など地域活性化に向けた取り組みを支援する予定で、28日は妻籠宿などを見て回り、関係者から課題や現状を聞いた。

妻籠宿では町観光協会の担当者3人に現状を説明。宿泊施設が10軒もなく、経営者らの高齢化も進んでいるとして「将来的に宿泊施設がなく

なってしまうかもしれない」と危機感を示した。支援官の一人は、買い物や飲食する場が少ないと指摘した。

町は課題の優先順位や解決策の検討に中央省庁の職員が持つ知見などを生かし、持続可能な地域づくりを目指す。

3人は本年度中に何回か町を訪れ、具体的な施策立案を町とともに進める。支援官の村彬良さん(37)は「地元の文化や歴史を理解しながら、議論を深めていきたい」と話した。